

人生・い・ろ・い・ろ

国保連合会囑託 ひがしだ 東田 ふみお 文男

「腹を割る」という言葉は知っているが、「腹筋を割る」という言葉は知らなかった。

久し振りに集まった同級生の一人が突然、「筋トレをして『腹筋を割る』ことに決めた」と言い始めた。熱戦が繰り広げられたサッカー・ワールドカップ（W杯）ブラジル大会を見て思い立ったというのである。

彼、曰く。「ユニホームの下のあの引き締まった肉体に魅せられた」と。そして、「憧れのシックスパック（6つに割れた腹筋）」を目指すというのだ。動機をさらに問うと、「いつまでも格好よくありたい」と。

仲間が集まれば、いつの間にか話題は「年金」と「病気・健康」の話になる。中学や高校時代、1学年10クラス以上（1クラス約50人）の仲間にもまれた1950年生まれである。広い意味では、善きにつけあしきにつけ、なにかと注目される1947～1949年生まれの「団塊の世代」に入る。

その圧倒的な「人口」の塊で、日本の高度経済成長を引っ張ってきたと評価されもしたが、これからは「金食い虫」とそしられかねない。現役を引退し次々と65歳以上の前期高齢者

の仲間に加わり、年金に加え医療、介護の需要の高まりで社会保障の財源を食いつぶしかねないというわけだ。

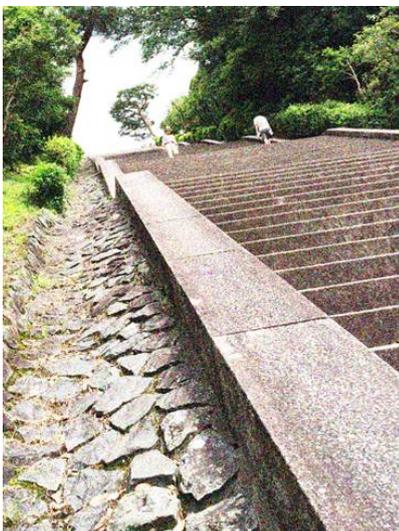
だが当事者はというと「65歳なんかはまだまだ高齢者ではない」と口をそろえる。2回目となる2020年の東京五輪・パラリンピックは「必ず見ることができる」と思っている。

とはいえ、一皮めくればそれぞれに悩みや不安を抱える。がんで奥さんを亡くし一人暮らしをするもの、認知症の両親の面倒をみるため東京から戻ってきたもの、非正規社員のため結婚できないという息子に仕送りするもの。波瀾万丈の人生を送った島倉千代子さんの歌ではないが「人生いろいろ」である。

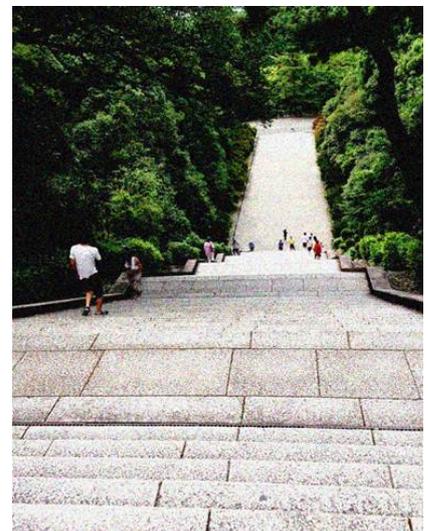
あらためてわが体を見る。85cmの下腹をベルトで押さえ込む。運動不足がたたって血圧の数値とにらめっこ。体の不調を訴え病院に行くと加齢が原因と言われ、つい先日には地下鉄で学生さんから座席を譲られた。2回目である。

「スポーツジムに通い始めた」。先の同級生からそんな連絡を受けた。

人生のゴールをいかに決めるか。腹を割って打ち明けるが、こんな怖い質問はまだまだしないでいただきたい。



人生上り坂あり、



下り坂あり…。